琉球大学学術リポジトリ

各種報告

メタデータ	言語: ja 出版者: 琉球大学大学院教育学研究科 公開日: 2024-04-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24564/0002020334

指導観の転換に影響を与えた教職大学院における理論と実践の往還
～総合的な学習の時間を核に置いたカリキュラム・マネジメントの実践～

琉球大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻　2 年
安里　三矢子（浦添市立浦西中学校教諭）

１．　研究の目的と背景

平成 28 年 12 月 21 日中央教育審議会答申では，2030 年頃の社会は予測困難な変化が激しく，子供たちの生き方に影響するとされている。一方で，子供たちは変化を前向きに受け入れ，新しい未来を構想し実現する力を育む必要があるとも述べられている。文部科学省（2022）は子供たちに社会の変化に主体的に対応し，多様な他者と協力して未来を創る力を育むことを求めており，学習指導要領（平成 29 年告示）では探究的な学習を強調し，実社会で活用できる資質と能力を育む基盤を築くことが基本的な考え方とされている。

しかし,筆者が令和 4 年 11 月に現任校にて実施した職員向けアンケートの回答からは，学校現場では従来のカリキュラムからの脱却に困難を抱えており，教職員は探究的な学習の実践に不安を感じているということが見える。また，沖縄県版生徒質問紙における現任校の生徒の回答状況からは，主体的な学びに関して肯定的でない結果がみられる。この状況からの脱却を目指し，総合的な学習の時間を核にしたカリキュラム・マネジメントと教師の指導観の転換について検証する研究が行われる必要があるといえる。

そこで，本研究科１年次では，生徒の主体的な学びが起こる場面や状況を見出すことに努め，それらを基に２年次では，現任校の生徒と教職員の実態に合わせた校内組織体制及びカリキュラム・マネジメントを実践することを通して，生徒の「主体的な学びを実現する」ための教師の指導観の転換を模索する。

２．　研究の実際

(1) 教職大学院における理論と実践の往還を通して生じた筆者の指導観の転換

筆者自身が前述の課題を抱える教職員の 1 人であることから，教職大学院 1 年次で学ぶ理論と実践（図１）を通して，自身の指導観の転換を見取った。1 年次前期の学びを通して，同じ教師の指導を受けても，生徒の学び方が多様であることや同一の生徒でも，1 時間の授業の中で主体的に学びに向かう場面とそうでない場面があるということが分かった（表１）。

自身の実習の記録から，「これまでは個々の生徒の学び方や学びの様子を見ようとして

こなかった」という記述がみられた。また，課題研究Ⅰにおいて，筆者が設定していた研究目的（1年次4月）は「学習の基盤となる資質・能力，現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成を目指したカリキュラム編成及び授業づくりにより，英語科・道徳科・学級活動において求められる資質能力の向上が実感できるかを検証したい。」という記述であった。

表1　琉球大学教職大学院において筆者が受講した講義及び筆者の指導観の転換

学期	理論	実践	指導観に関する事項
1年次前期	教育課程編成の課題と実践 指導と評価の課題と実践 教授・学習の課題と実践 思考・判断・表現力育成の課題と実践 生活指導・生徒指導の実践と課題 学校不適応への実践と課題 学級経営の実践と課題 学校改革の実践と課題 学校教育・教員のあり方の課題と実践 沖縄の学校と社会	課題発見実習Ⅰ 課題研究Ⅰ	・これまで，個々の生徒の学び方や学びの様子のを見ようとしてこなかった（実習記録より） ・課題研究における研究の目的に「生徒の様子や主体的な」という記述が現れた（課題研究報告書ドラフトより）
1年次後期	授業分析・リフレクションの理論と実践 授業づくりの理論と実践 組織的意思決定マネジメント 教師の成長とメンタリング 学校マネジメント	課題発見実習Ⅱ 課題研究Ⅱ	・生徒も教師もリフレクションを基に学ぶことで，次の学びへ向かう（実習記録より） ・課題研究における研究の目的に「生徒が主体的に解決したくなるような問いの設定」という記述が現れた（課題研究中間報告書より）
2年次	課題研究に関する文献等から理論を学ぶ	課題解決実習 課題研究Ⅲ 課題研究Ⅳ	

しかし，課題研究Ⅰ終盤の8月時点における研究の目的は，「授業中にはなかなか主体的に学習に向かえない生徒が，放課後の補習や，総合的な学習の時間のICE Program（異文化交流会）と連動させた自由課題に対しては，目をキラキラ輝かせて既知の情報を整理したり，新しい情報を収集したり，他者と相談したり，協働したりする中で，英作文（シナリオ）を書き，プレゼンテーションや質疑応答に対応するなどの様子が見られた。まさに，主体的・対話的・深い学びが垣間見えたのだ。ここに課題解決の糸口があると考え，言語を基盤とした思考力・判断力・表現力を相互に育成する観点から，英語科を軸に置いた，教科等横断的な英語科の授業モデルを模索する。」という記載へと変化している。このことから，1年次前期の教育学研究科における理論と実践を通して，筆者は生徒の様子を観察し実態を把握することを通して，指導観の転換がみられたと考えられる。

1年次後期は，「生徒の主体的な学び」を支える教師の視点に着目して選択必修の授業を受講した。「生徒の主体的な学び」を支えるものを授業づくりと校内組織体制のふたつの視点から理論的に学んだ。課題発見実習Ⅱにおいては，教科等横断的な単元構成において，生徒の主体的な学びの起点となるような「問い」の設定を中心に実践及び分析を行った。1年次前期では，生徒の実態に即した授業づくりに着目していたが，1年次後期の理論と実践の往還を経ることで，生徒が主体的に学びたくなるような環境づくりの必要性に着目す

るようになったと見受けられる（表１）。1 年次後期末に発表した課題研究中間報告には「本研究は中学校外国語科において，生徒が主体的に解決したくなるような問いを設定し，それを起点として，「課題解決に主体的に取り組む」単元構造を探ることを目的とする。」という研究目的を掲げていることから，生徒がより主体的に学ぶための環境設定には「教科横断的な学び」と「問いの設定」が必要だという指導観の転換がみられる。

(2) 現任校における総合的な学習の時間を核に置いたカリキュラム・マネジメント

1 年次後期から，現任校における生徒と教職員の「主体的な学び」に関する意識をヒアリングした（表２）。現任校においては，教職員及び生徒が「主体的な学び」に課題があると考えていることが分かった。また，国や県が掲げている主体的な学びを実現する施策の核である「探究的な学習」や「総合的な学習の時間の質の向上」について，取組に躊躇したり，不安を感じていたりする教職員が大多数であることが分かった。そこで，筆者が 1 年次に学んだ理論と実践の往還を通して自身の指導観の転換が起こったことを参考に，学校長のグランドデザインに即した校内組織体制の構築を課題研究として取り組むこととした。総合的な学習の時間を本来求められているような，「課題設定」「情報収集」「整理分析」「まとめ表現」という探究の過程を経るカリキュラムに改編することを通して，生徒自身が解決したい「課題」を設定し，その解決のために主体的に学ぶことができるのではないかと考える。

表２　E 中学校校内研修・校内研実施内容（抜粋）

年月	回	総合的な学習の時間を核においたカリキュラム・マネジメントに係る実施内容
R4.10	1	学校長のR5年度グランドデザインヒアリング
R4.11	2	生徒の実態把握・教師の指導観調査アンケート実施
	3	年間指導計画における、総合的な学習の時間の指導内容のヒアリング
	4	R４実施中の総合的な学習の時間の指導内容の内容、R５継続実施が必要な事項の洗い出し
R4.12	5	R４道徳・特別活動年間指導計画の指導内容のヒアリング
R5.1	6	アンケート結果分析・R５総合的な学習の時間年間計画叩き台提案及び意見ヒアリング
R5.2	7	R5 総合的な学習の時間、R5校内研修・校内研究、R5授業づくり（学力向上）提案・承認
R5.4	8	R5 総合的な学習の時間、R5校内研修・校内研究、R5授業づくり（学力向上）提案・承認
	9	第1回校内研修/校内研究「探究学習とは」「WS：探究テーマ設定を体感してみる」
	10	第2回校内研修/校内研究「R4実践発表」
	11	第4回校内研修/校内研究「WS：探究テーマ設定の支援の方法をつかむ」
R5.5	12	ミニゆんたく研修①「探究活動におけるファシリテーション」とは
	12	ミニゆんたく研修②「探究学習について相談しよう」
R5.6	13	第6回校内研修/校内研究「1人1公開授業計画・授業改善の視点・指導案作成について」
R5.7	14	第7回①校内研修/校内研究「グランドデザインに係る教育実践の中間分析」
R5.7	15	第7回②校内研修/校内研究「今求められるキャリア教育の視点」
R5.7	16	第8回校内研修/校内研究「探究型学習デザイン修正会」
R5.7	17	第9回校内研修/校内研究「プロジェクト型学習デザイン会」
R5.7	18	第10回①校内研修/校内研究「授業づくり実践発表・伝達講習会」
R5.7	19	第10回②校内研修/校内研究「1人1公開授業づくり検討会」
R5.8~9	20	第11回校内研修/校内研究「プロジェクト型学習カリキュラム立案」
R5.10	21	第12回校内研修/校内研究「県版生徒質問紙の結果分析・E中授業スタイルの共通実践」

このような生徒の学びを実現するためには，教師が従来行ってきた「一斉授業」や「教える授業」のみに頼るような指導観から，生徒の課題解決に寄り添い・伴走し・問いかけ・ファシリテートし・適切な人材や環境等とつなぐなどの役割を果たすという指導観への転換が求められる。このような指導観の転換は，これまでも国や県の施策として求められている。その一方で，現場レベルで実現できない要因の一つにこれまでの慣習などからの脱却を多忙な業務の中個別に取り組むことが難しいということがあげられると考える。筆者が令和 4 年 11 月に現任校にて実施した職員向けアンケートの回答には，「総合的な学習の時間にどのようなカリキュラムを設定したらよいか分からない」「総合的な学習の時間と探究的な学習の違いが分からない」「探究的な学習をどのように指導したらよいか分から

ず不安」などという声が多数あげられたことからも関連があるといえるだろう。そこで，図２に示される考え方を参考に，校内研究のテーマを「総合的な学習の時間を核に置いたキャリア教育の推進」と置き教師が探究のプロセスを通して総合的な学習の時間のカリキュラム編成を行うこととした。そのために，学校長のリーダーシップのもと，①校内研究を中心としたカリキュラム・マネジメント，②総合的な学習の時間委員会という小部会を中心としたカリキュラム・マネジメント，③教科会という小委員会を中心としあカリキュラム・マネジメントを体系的に実施することで，教師の指導観の転換を図ることを模索した。

図２　Society5.0 の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージより抜粋

３．　結果と考察

(１)アンケートより

令和４年度末時点で，「生徒はやる時はやるが，学習意欲が低い」という捉えをしている教師が多く，多くの教師は「規律を正し，知識技能をいかにして伝えるか」という指導観を持っていた。本研究で取り上げた実践（表 2）を通して，職員の指導観に転換が見られたのは，探究成果報告会後とプロジェクト型学習で生徒がフィールドワークへ出かけた後である（表３）。このことから，教師の指導観は生徒が主体的に活動するようになる姿を観ることにより，転換したと考えられる。

また，指導観の転換にバラつきはあるが，総合委員会の構成員である職員は，「いかに知識技能を教えるか」という指導観から「いかに生徒が主体的に探究できるように支援するか（どう問うか)」という指導観に転換した時期が早かった。更に，その構成員を中心として校内研修や学年会での職員間のコミュニケーションがとられるようになった時期と，他の職員の指導観の転換が起きはじめた時期が近かった。これらを鑑みると，カリキュラムマネジメントに関わる深さや回数がより深く・より多くなると指導観の転換は早くなる傾向があると考えられる。

表３　職員向けアンケート：指導観の現れ　（抜粋）

年月	回	校内研修・校内研究に係る実践内容	総合的な学習の時間委員会	学年会・ミニ学年会	総合的な学習の時間実践内容	探究プロセス	教師の指導観　○：生徒の指導支援についてポジティブ／●：生徒の指導支援についてネガティブ
R5.4	8	R5 総合年計、校内研修,校内研究年計、授業スタイル(学習)授業・承認	第1回～第3回 ・学年ガイダンスデザイン ・学級ガイダンスデザイン ・探究活動③情報収集授業デザイン	第1回～第4回 ミニ1回	学年探究学習ガイダンス 学級探究学習ガイダンス 探究計画	課題設定 情報収集	Q：探究計画発表会までの過程で、ファシリテーターとして身についてきた力はなんだと思いますか？ ○答えを導き出させる方法が身についてきた。 ○とんかつ「聞いかけ、ん～と　考え、つなぐ」力が身についてきた。 Q：探究計画発表会までの過程で、ファシリテーターとして苦労したことや困ったことは何ですか？ ●思考が行き詰まったグループへの効果的な支援方法 ●生徒間の主体性の差や、能力の差があり、指導しづらい ●初めてのことなので、自分の支援の仕方が正しいのか、目的に沿っているのかわからないことが多かった。
	9	第1回校内研「探究学習とは」「WS：探究テーマ設定を体感してみる」					
	10	第2回校内研「R4実践発表」ICTを活用した授業づくり、支持的風土づくりを意図した学級経営、自治活動を意図した生徒会活動					
	11	第4回校内研「WS：探究テーマ設定の支援の方法をつかむ」					
R5.5	12	ミニゆんたく研修④「探究活動における「ファシリテーション」とは	第4回～第9回 ・探究計画授業デザイン ・探究計画発表会デザイン	第5回 ミニ1回	探究計画 探究計画発表会	解理分析 まとめ 表現	
	12	ミニゆんたく研修③「探究学習について相談しよう」					
R5.6	13	第6回校内研「1人1台貸授業計画・授業改善の視点・指導案作成について」	第10回～第12回 ・探究活動③④⑤情報収集授業デザイン	第6回 ミニ3回	探究活動	課題設定 情報収集	○深い学びを身につけさせるためのアドバイス ○検証方法を一緒に検討したり、限られた時間の中で生徒がやれることを見つけだして導くこと、生徒と一緒に考える力 ○深い学びを身につけさせるためのアドバイス ○生徒が考えてること、思考錯誤している中で停止してしまったこ時に、ほどいてあげること。 ○知りたい情報の検索力。調べてもよくわからない内容を調べる取り掛かりなど。 ○探究課題へのアドバイス、検証方法を一緒に検討する、限られた時間の中で生徒がやれることを見つけだして導くこと ●調べさせ方を一緒に考える時間が短く感じた。 ●どういう検証の仕方、手法があるか分からず、指導ができず、生徒の整理分析、検証が薄かった。 ●ipadやアプリ操作などに慣れていないため、活用について質問されても答えることができなかった。 ●もっと学校の外に出して、アンケートをさせたかったが、時間配分がうまくいかず、夏休みに生徒任せになった。 ●答えを準備して生徒と対話するもの、と気負いしていた時期は、生徒より先回りして内容を理解して生徒にわかりやすいように説明すること、見通しをもたせること ●生徒が話を聞かない。 ●自分自身がよく理解できていなかったのでファシリテーターになれなかった。
R5.7	14	第7回③校内研「グランドデザインに係る教育実践の中間分析」	第13回～第15回 ・解理分析授業デザイン ・夏休みフィールドワーク計画授業デザイン ・夏休みフィールドワーク支援デザイン	第7回	夏休みフィールドワーク計画 夏休みフィールドワーク	情報収集 解理分析	
R5.7	15	第7回③校内研「今求められるキャリア教育の視点」					
R5.7	16	第8回校内研「探究型学習デザイン修正会」					
R5.7	17	第9回校内研「プロジェクト型学習デザイン会」					
R5.7	18	第10回③校内研「授業づくり実践発表・伝達講習会」					
R5.7	19	第10回③校内研「1人1台貸授業づくり検討会」					
R5.8~9	20	第11回校内研「プロジェクト型学習カリキュラム立案」	第16回～第21回 ・解理分析③授業デザイン ・まとめ表現授業デザイン	第8回～第9回 ミニ1回	探究成果報告会（学年） 探究成果報告会（全体）	まとめ表現	○生徒と一緒に考える力 ○自らも共に学べば良いと思った ○ファシリテーターの魅力 ○探究学習の良さや取組などが少しずつわかりかけてきた。 ○生徒自身が考えて行動するように支援する事 ○生徒の考えを引き出したり具現化させること ●どのように、何をどこまでアドバイスしたら良いか。 ●子供のやる気を引き出せなかった ●問答していることがねらいにあっているか不安 ●教師がわからず、生徒から習う事があり、申し訳ない。 ●もっと学校の外に出して、アンケートをさせたかったが、時間配分がうまくいかず、夏休みに生徒任せになった。 ●生徒がつまずいた時に、整理してあげたり、答えを導くためのヒントや助言を行うことが難しかった。 ●自分自身がよく理解できていなかったのでファシリテーターになれなかった。
R5.10	21	第12回校内研「県版生徒質問紙の結果分析・○○中授業スタイルの共通実践」	第22回～第26回 ・プロジェクト型ガイダンスデザイン ・フィールドワーク授業デザイン ・プロジェクト計画発表会デザイン	第10回 ミニ4回	学年プロジェクト型学習ガイダンス フィールドワーク・プロジェクト計画	課題設定 情報収集	○生徒がどうやったら、自分で考えて進められるかという視点で、学年会で話し合いができている。 ○前期より、一人ひとりと対話して、取り組んでいることについて問答する数が増えた。 ○やっと、探究的な学習が軌道に載ってきたと感じる。 ○空港にこんなに送り出していいのか、スマホを持たせていいのか不安があったが、事前指導をしっかりして機会を作れて本当に良かったと思う。 ○生徒たちがこんなに思考錯誤して情報収集をすることができるのかと驚いた。 ○他学年の生徒の様子を聞いて、自分の学年でも校外でのフィールドワークを取り入れたいと思う。 ●問答が足りなかったり、教えようとしたりし過ぎて生徒が自分で考えることに行き詰る様子がある。 ●公共の場でのマナーが気になる。 ●生徒の自由に任せる度合が分からない。完成度が心配。

（２）インタビューより

総合委員Ａさんは，前期の探究学習の支援に際して苦労したことについて「答えを準備して生徒と対話するもの，と気負いしていた時期は苦労した。」と話した。生徒個々によって違う探究課題について，自身が知識を持っていないといけないと考え，知らないことは生徒に探究させてあげられないと思い，悩んだという。総合委員ではないＢさんは，「生徒に探究成果報告会までにきちんとした報告書などの成果物を作成させないといけない」と考え，「しっかりフィールドワークに取組み，ちゃんとした情報を集めてこさせないといけない」「伺う先の地域や人に迷惑をかけてはいけない」などという懸念事項ばかりに気がとられ，不安になり，生徒をコントロールしようとする自分に葛藤したという。総合委員Ａさんは，総合委員会で何度も「失敗してもいい。生徒が自分で課題を見つけて，考えて，行動するために支援する。」という視点を確認したことにより，「気が楽になって，周りや地域，書籍，インターネットなどを頼りながら，一緒に考えればいい」と思うようになったそうだ。総合

委員ではないＢさんは,総合委員の先生方の考えを学年会で聞き,実際に総合委員の先生方が生徒とやりとりしている姿を観ることで,「なんだ。質問をしたり,知っていそうな専門家を一緒に探したり,実験に必要な環境を一緒に考えたりすればいいのか」と考えるようになったという。

このことから,指導観の転換が起きるには,「総合的な学習の時間を核においた実践を通して生徒の主体的な学びを支援する」という共通の視点を何度も確認したり,その認識に基づいた実践や試行錯誤を繰り返したりすることが必要だということが考えられる。また,同じように葛藤しながら進む職員間のコミュニケーションが十分に取れることも同様に重要な役割を果たしているということが言える。

４．　今後の展望

生徒の主体的な学びを実現するためには,そこに資する教師の指導観の転換が重要な役割を担っている。「生徒の主体的な学びに課題がある」という状態に「組織的に動態化させる課題解決的な営み」としての総合を核に置いたカリキュラム・マネジメントを全教職員で行うことで,教師の指導観の転換が起こると言える。具体的には,同僚の生徒との関わり方が変わり,生徒の学びの姿が変わることを目の当たりにすることが教師の指導観の転換に大きな影響を与える。また,確立された教師の指導観は教科や領域によって使い分けることは考えにくいことから,「総合的な学習の時間を教育課程の中核に据えて,学習の効果の最大化を図る」ものとして,各教科の授業づくりへの波及効果も期待できる。

参考文献

総合科学技術・イノベーション会議，2022「Society5.0 の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ」，https://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/kyouikujinzai/saishu_print.pdf　情報取得 2023.8

中央教育審議会，2016「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策について(答申)」.

文部科学省，2018『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)』，東山書房.

文部科学省，2022『今，求められる力を高める総合的な学習の時間の展開：未来社会を切り拓く確かな資質・能力の育成に向けた探究的な学習の充実とカリキュラム・マネジメントの実現』，　株式会社アイフィス.

琉球大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻，http://www1.edu.u-ryukyu.ac.jp/kyoshoku/kyouikukatei.html　情報取得　2023.10.

本稿はポスターセッション当日の配布資料であり,2023 年度日本教職大学院協会年報別刷にはこの要約版が掲載予定。

令和５年度（2023 年度）　年間行事実施状況

１　おもな大学院年間行事

４月６日	入学式	
６月１０日	オープンキャンパス（Zoom）	14 名参加(19 名申込)
６月１日から６月１４日	前期授業相互参観（授業公開）	16 名参加
１０月１４日	教職大学院入学試験	
１１月２日	教職大学院合格発表	
１１月２３日	教育研究集会（ホームカミングデー）	59 名参加
１１月３０日から１２月１３日	後期授業相互参観（授業公開）	20 名参加
１２月９，１０日	日本教職大学院協会研究大会（発表　安里三矢子）	
１月２０日	教職大学院入学試験（二次募集）	
２月８日	教職大学院合格発表（二次募集）	
３月１０日	学修成果報告会	
３月１９日	修了式	

２　１年次学生の学校等における実習について

⑴ 課題発見実習Ⅰ及び課題発見実習ⅠA・ⅠB（特別支援教育）

◆附属学校関係　（７日）

附属小学校　６月１６日，６月２２日，６月２６日

附属中学校　４月２１日，４月２８日，５月２６日，７月１１日

◆支援学校関係　（１７日）

沖縄県立盲学校　５月１２日，６月２８日，７月　３日

沖縄県立ろう学校　５月３１日，６月　５日，６月　９日

島尻特別支援学校　５月３１日

泡瀬特別支援学校　６月　９日

美咲特別支援学校，　６月１９日

鏡が丘特別支援学校　５月１９日，６月１６日，６月１９日，７月１１日

森川特別支援学校　５月１９日，６月１９日，７月　７日，７月１１日

⑵ 課題発見実習Ⅱ及び課題発見実習Ⅱ（特別支援教育）

◆前期　９月４日から９月２９日の間，学校別に２週間実施

＜連携協力校１２校で実施＞

小学校　中城南小学校，志真志小学校，大謝名小学校

中学校　宜野湾中学校，普天間中学校，中城中学校

高等学校　宜野湾高等学校，西原高等学校，中部商業高等学校，普天間高等学校

特別支援学校　沖縄県立大平特別支援学校

◆後期　１月１５日から２月１３日の間，学校別に２週間実施

＜連携協力校１２校で実施＞

小学校　中城南小学校，普天間第二小学校，大山小学校，

中学校　普天間中学校，美東中学校，中城中学校

高等学校　宜野湾高等学校，西原高等学校，中部商業高等学校，普天間高等学校
特別支援学校　沖縄県立はなさき支援学校

３　教育委員会，連携協力校関係者の行事・会議について（５回，いずれも Zoom を利用）

５月２５日	第１回教職大学院連携推進会議
５月２５日	第１回連携協力校等連絡協議会
１０月１９日	第２回連携協力校等連絡協議会
１月１８日	第２回教職大学院連携推進会議
１月１８日	第３回連携協力校等連絡協議会

琉球大学教育学研究科専門職学位課程　教職教職講座　（教職大学院）　令和5（2023）年度 年間行事　R：課題研究Ⅲ・Ⅳ（職専免）

2023年4月3日　現在

2024年（令和7年）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 土	月	1 木	土	1 火	金 成績開示　個別入 資格審査申請締切	1 日	水 専攻会議	1 金 連携協力校 会準備委員	月 元旦	1 木	金 成績開示
2 日	火	2 金 附小Ⅰ：1回 附小ⅠA：1回	日	2 水 専攻会議	土	2 月 3rdQ 授業開始	木 大学院合格者発表	2 土	火	2 金	土
3 月 シラバス 時間割公開	水 憲法記念日	3 土	月 1stQ成績開示	3 木	日	3 火	金 文化の日	3 日	水	3 土 課題研究Ⅳ発表 (学内)仮	日
4 火	木 みどりの日	4 日	火 16時20分 附小	4 金	月	4 水 専攻会議	土	4 月	木	4 日	月
5 水	金 こどもの日	5 月 沖ろう Ⅰ 沖ろう Ⅰの①	水 専攻会議	5 土	火 県Workin	5 木	日	5 火	金	5 月	火
6 木 入学式　8期生 の対面式	土	6 火	木 連携協力校等連絡 協議会準備会	6 日 教育学部停	水 専攻会議	6 金	月	6 水 学校推薦型 特別選抜入	土	6 火	水 専攻会議
7 金	日	7 水	金 沖育 ⅠB 沖育 Ⅰの③班	7 月	木	7 土 琉大祭予備日	火	7 木	日	7 水 専攻会議	木
8 土 10～24日 定期健康診断	月	8 木 課発Ⅰの③	土	8 火	金	8 日 琉大祭予備日	水	8 金	月 成人の日	8 木 二次募 集合格 者発表	金
9 日	火	9 金 沖ろう Ⅰ 泡瀬特 沖ろう Ⅰの ②	日 沖縄県教員採用試験	9 水 英語全学統一テスト	土	9 月 スポーツの日	木	9 土	火 授業開始　全学 金曜振替	9 金	土
10 月 仮登録抽選結果開示	水 専攻会議	10 土 教職大学院オー キャンパス	月	10 木 台風等予備日	日	10 火	金	10 日	水	10 土	日 学修成果発表 会 入学前オリエ
11 火 新1年次図書オリエ テーション	木	11 日 集中：特支教シ ム論①	火 ⅠB：鏡が丘特支4	11 金 山の日	月	11 水	土	11 月	木	11 日 建国記念の日	月
12 水 授業開始	金 沖育 ⅠB 沖育Ⅰの②班	12 月 第2クオーター開	水	12 土	火	12 木	日	12 火	金 大学入学共通テスト 準備のため終日休講	12 月 振替休日	火 学部一般選抜 後期
13 木	土	13 火	木	13 日	水	13 金	月	13 水 専攻会議	土 大学入学共通テスト	13 火	水
14 金 1年次：月 授業振替	日	14 水	金 1年次11日分振替	14 月 台風等予備日	木	14 土 大学院入試	火	14 木	日 大学入学共通テスト	14 水	木
15 土 課発 Ⅰ：実習事前指	月	15 木	土	15 火 前期・2ndQ終了	金	15 日	水 専攻会議	15 金	月	15 木	金
16 日	火	16 金 附小Ⅰ：2回 ⅠB：鏡が丘特支2	日 全学オープンキャンパス	16 水	土	16 月	木	16 土	火	16 金	土
17 月	水	17 土 集中：特支教システム論②	月 海の日	17 木	日	17 火	金	17 日	水	17 土	日
18 火	木 附小オリエンテーション	18 日 集中：特支教システム論③	火 3限：課題発見実習 Ⅰ事後指導 等	18 金	月 敬老の日	18 水 専攻会議	土	18 月	木 連携推進会・連 協力校等連絡	18 日	月
19 水 専攻会議	金 ⅠB：鏡が丘特支1 附中Ⅰ：3回	19 月 ⅠB：鏡が丘特支3 課発Ⅰの②班　美咲特	水 専攻会議	19 土	火	19 木 連携協力校等連絡 協議会	日	19 火	金	19 月	火 卒業式・修了式
20 木	土	20 火 全学 金曜日 振替　1年次火曜授	木	20 日	水 専攻会議	20 金	月	20 水 専攻会議	土 二次募集大学院 試入試	20 火 課題発見実習 後期事後指導	水 春分の日
21 金 附中ⅠA：1回 附中Ⅰ：1回	日	21 水 専攻会議	金 1年次17日分振替	21 月	木 授業時間配 当表公開	21 土 予備日：大学院入 試	火	21 木	日	21 水 専攻会議	木
22 土	月 開学記念日	22 木 附小Ⅰ：3回 附小ⅠA：2回	土	22 火	金	22 日	水	22 金 県Working	月	22 木	金
23 日	火	23 金 慰霊の日（休講） ※勤務日	日	23 水	土 秋分の日 琉大祭	23 月	木 勤労感謝の日	23 土	火	23 金 天皇誕生日	土
24 月	水	24 土	月	24 木	日 琉大祭	24 火	金	24 日	水	24 土	日
25 火 県Working	木 連携推進会議・連 携協力校等連絡協	25 日 集中：特支教システム論④	火	25 金	月	25 水	土	25 月	木	25 日 学部一般選抜前	月
26 水	金 附中Ⅰ：4回 附中ⅠA：3回	26 月	水	26 土	火	26 木	日	26 火	金	26 月 学部一般選抜前	火
27 木 16時20分 附小実習 連携部会（仮）	土 体育祭	27 火	木 「課題発見実習 Ⅰ・ⅠA・ⅠBの まとめ」提出期限	27 日	水	27 金	月	27 水	土 大学入学共通テ ト追試験実施日	27 火 「課題発見実習Ⅰ まとめ提出期限	水
28 金 附中Ⅰ：2回 附中ⅠA：2回	日	28 水 沖育 Ⅰ 沖育 Ⅰの①班	金 1年次	28 月	木	28 土	火	28 木 仕事納め	日 大学入学共通テ ト追試験実施日	28 水	木
29 土 昭和の日	月	29 木	土	29 火	金	29 日	水	29 金	月	29 木	金
30 日	火	30 金 1年次　28日分振	日	30 水	土	30 月	木	30 土	火		木
31	水 沖ろう Ⅰ 沖ろう Ⅰの③班 課発Ⅰの①班：島尻特	31	月	31 木		31 火 R5		31 日	水		金 学年・後期終了

前期　仮登録期　登録調整期間／※連携推進会議・連携協力校等連絡協議会準備　授業参観・公開　前期試験：2～8日　夏季休業～9月30日まで　課題発見実習2　学校別に2週間実施　令和6年度 学生募集 出願期間　登録調整期間 9月29日～10月16日　授業参観・公開　令和6年度 二次募集 出願期間～1月4日まで　冬季休業　二次募集　課題発見実習2　学校別に2週間実施　春季休業　課題発見実習2　春季休業　後期仮登録　旧盆

課題発見実習Ⅰ・ⅠA・ⅠBは7月中旬までに終える。実習関連主担当：附属小：白尾・道田　附属中：比嘉　特別支援学校：城間　課題発見実習Ⅱは10月第1週までに終える。担当：各連携協力校の担当者／　課題発見実習Ⅱは2月第2週までに終える。Q：クオーター制

授業参観・公開：前期は6月第1～2週、後期は12月第1～2週、それぞれ2週間を原則とする

特別支援学校教諭専修免許課程以外の実習	課題発見実習Ⅰ（10日間）　17名 附属小：3日　附属中：4日　特別支援学校：3日（沖もう1・沖ろう1・〇〇特 ①班／②班／③班の各グループ毎　3日間　課発Ⅰの〇班　〇〇特支	課題発見実習Ⅱ：（10日間×2回） 課題解決実習：（20日間）
課題発見実習Ⅰ特別支援学校実習グループ	①班：・・・・・　／②班：・・・・・・　／③班：・・・・・	

特別支援学校教諭専修免許課程の実習	課題発見実習ⅠA・ⅠB（15日間）　名 附属小：2日　附属中：3日　特別支援学校：10日 3名：／／	課題発見実習Ⅱ（特別支援教育）：（10日間×2回） 課題解決実習（特別支援教育）：（20日間）

2023年度　学校等における実習　連携協力校一覧

校種	学　校　名	住　所
小学校	琉球大学教育学部附属小学校	西原町字千原1番地
	中城村立 中城南小学校	中城村字南上原800番地
	宜野湾市立 普天間第二小学校	宜野湾市新城2-8-19
	宜野湾市立 大謝名小学校	宜野湾市大謝名5-12-1
	宜野湾市立 大山小学校	宜野湾市大山5-16-1
	宜野湾市立 志真志小学校	宜野湾市宜野湾3-5-1
中学校	琉球大学教育学部附属中学校	西原町字千原1番地
	沖縄市立 美東中学校	沖縄市高原5-12-1
	中城村立 中城中学校	中城村字屋宜741-1
	宜野湾市立 宜野湾中学校	宜野湾市赤道1-15-1
	宜野湾市立 普天間中学校	宜野湾市新城2-41-1
高等学校	沖縄県立 普天間高等学校	宜野湾市普天間1-24-1
	沖縄県立 宜野湾高等学校	宜野湾市真志喜2-25-1
	沖縄県立 西原高等学校	西原町字翁長610番地
	沖縄県立 中部商業高等高校	宜野湾市我如古2-2-1
	沖縄県立 浦添商業高等学校	浦添市伊祖3-11-1
特別支援学校	沖縄県立 鏡が丘特別支援学校	浦添市当山3丁目2-7
	沖縄県立 大平特別支援学校	浦添市大平1-27-1
	沖縄県立 森川特別支援学校	西原町字盛河151
	沖縄県立 泡瀬特別支援学校	沖縄市比屋根5-2-20
	沖縄県立 はなさき支援学校	北中城村字屋宜原415
	沖縄県立 沖縄ろう学校	北中城村字屋宜原415
	沖縄県立 沖縄盲学校	南風原町字兼城473
	沖縄県立 島尻特別支援学校	八重瀬町字友寄160
	沖縄県立 美咲特別支援学校	沖縄市美里4-18-1

教職大学院の学校における実習の成果と課題
―協働を通した実習―

琉球大学教職大学院　教育実習委員会

１．共通・選択科目及び課題研究Ⅰ～Ⅳとの融合

１年次の課題発見実習Ⅰ／ⅠA･ⅠB は，共通科目，課題研究Ⅰと並行して非連続の実習に取り組む。共通科目での学びと実習での学びが課題研究Ⅰ／ⅠA・ⅠBを中心に統合される。課題発見実習Ⅱでは，後期の選択科目の学びが実習で実践できるよう課題研究とのつながりも強くなった。

２年次は１年次で検討された研究課題を基に課題解決実習と課題研究Ⅲ・Ⅳに取り組んだ。課題解決実習を行う院生の勤務校及び連携協力校でのリフレクションに加えて，課題研究Ⅲ・Ⅳで，課題解決実習で多様な大学教員を交えて省察し，課題への解を具体化する等の学修を重ねた。

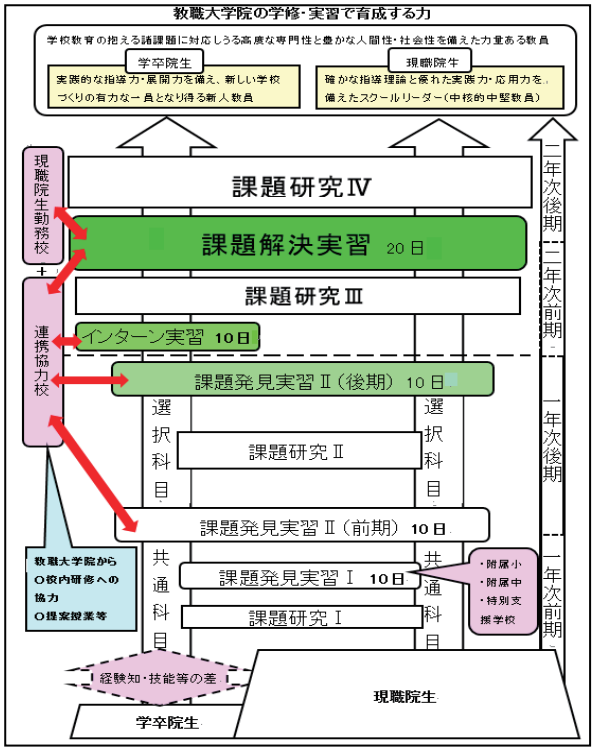
２．連携協力校との協働の充実

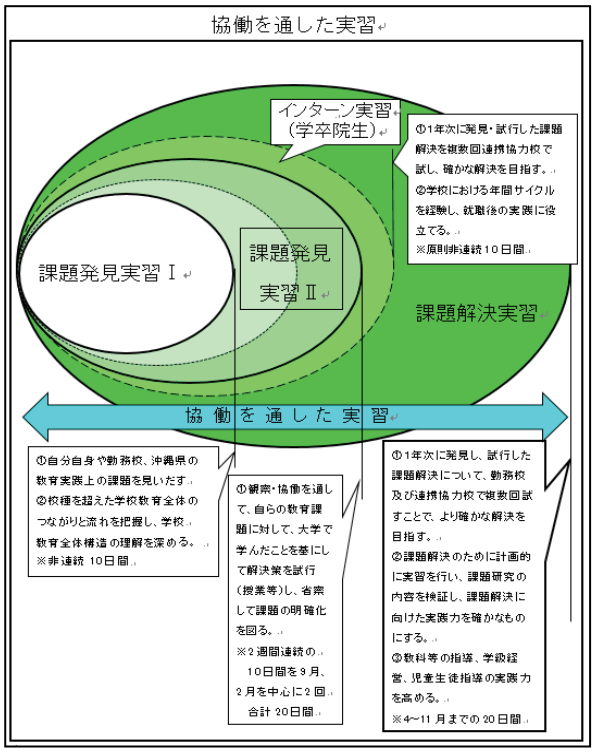
課題発見実習Ⅰ／ⅠA･ⅠBは，１年次前期の院生の研究課題を基に観察実習を中心として異なる校種で行った。観察を通して個を見取ることに主体を置き，全体でのリフレクションやグループ協議による意見交換を行った。また，校種間の共通性および違いについての視点も踏まえ，自分自身や沖縄県の教育実践上の課題について考えた。

課題発見実習Ⅱでは明確化の過程にある院生の課題を基に院生が課題解決に向けた試行を行った。９月と１月（下旬～２月）に、別の学校で２回の実習を実施することにより，自己の課題についてより多角的に分析することができた。

学卒生によるインターン実習では，年度当初の多忙な業務の分担と協同を実践し，事務作業や年度当初の行事などで実習校教員の負担軽減に貢献した。院生も学校業務としては見えにくい部分を体験し，年度初めの担任の心境や教員としての心構え等について実感した。

課題解決実習では，院生自身の課題対応のみならず，授業実践や大学教員とのリフレクションが連携協力校の教員の参考となる場面もあり，また，連携協力校自身の課題や現状を再確認する機会にもなり，そのことが教職員の個々の授業改善や学びにもつながり，管理者からも好評価を得ている。





琉球大学教職大学院　FD 委員会

ＦＤ委員会は，今年度，委員会を延べ８回開催し，①相互授業参観，②学生による授業評価，③学生アンケートの実施，そのほか④認証評価関連会議の以上の４点を中心に活動を行った。
＊ＦＤ委員：上間陽子，多和田実，吉田安規良

1.　相互授業参観・授業公開

毎年前学期および後学期の各２週間，教員が相互に授業を参観し，その結果を授業改善に活かすとともに，広く授業を公開することにより，本専攻の教育活動の周知とその改善に努めている。今年度は世の中が With/After コロナに向けた新たな段階へと移行していったことから，コロナ禍前と同様に前学期，後学期とも学内外を問わず一般に告知する形で実施した。特に今年度は，平日以外に振替開講されている科目を除き，全授業（名称に課題研究が付される科目は個別指導時以外）とも２回公開する形で準備した。参観者からアンケートが参観後に提出された科目については，FD 委員長宛に科目担当者による「授業参観のまとめ」の提出を依頼している。

日程は前期が６月１日から６月 14 日，後期の授業が 11 月 30 日から 12 月 13 日となっており，それぞれ延べ人数が，前期 16［内，専攻会議構成員以外５：学内２，学外３］，後期 20［内，専攻会議構成員以外７：学内１，学外６］となっている。FD 活動の対象である専攻会議構成員以外（特に学外者）の参観も確認された一方で，残念ながら専攻会議構成員全員が毎学期に１人１回は授業を参観しているとは言えない状況であった。

２．学生による授業評価

（１）授業評価の項目や方法

教育学部では教育活動に係る全学的な授業の点検評価に関して，教師が持つ教育力の自己点検と自律的な向上を目指して 2006 年度から「授業評価アンケート」を導入しているが，それと同様に教職大学院教員も 2016 年度からこの「授業評価アンケート」に参加している。この「授業評価アンケート」は，2022 年後期はコロナ禍における遠隔授業形態の変更を加味して 07・08・09 の設問が追加された 10 項目から構成されているほか，2023 年前期はそれらをのぞく７項目から構成された。

（２）　実態

設問01「シラバスに記載された目的や趣旨が活かされた授業でしたか。」
設問02「使用した教材は適切でしたか。」
設問03「教員の説明はわかりやすかったですか。」
設問04「理解を促すための方法上の工夫がよくされていましたか。」
設問05「授業の目標、内容の理解のため、授業中は深く考え、自分なりの問いを立てることができましたか。」
設問06「遠隔授業では教員とのコミュニケーションは取りやすかったですか。（遠隔授業を受講していない場合は⑤を選択してください）」
設問07「本授業における遠隔授業の学習効果は対面授業と比較していかがでしたか。（遠隔授業を受講していない場合は⑤を選択してください）」
設問08「本授業における対面授業は安心して受講できましたか。（対面授業を受講していない場合は⑤を選択してください）」
設問09「総合的に判断してこの授業に満足していますか。」
設問10「本授業における感想を記述してください。」

設問01「シラバスに記載された目的や趣旨が活かされた授業でしたか。」
設問02「使用した教材は適切でしたか。」
設問03「教員の説明はわかりやすかったですか。」
設問04「理解を促すための方法上の工夫がよくされていましたか。」
設問05「授業の目標、内容の理解のため、授業中は深く考え、自分なりの問いを立てることができましたか。」
設問06「総合的に判断してこの授業に満足していますか。」
設問07「本授業における感想を記述してください。」

それぞれの設問について，１強くそう思う　２そう思う　３どちらとも言えない　４そう思わない　５全くそう思わないの５つの選択肢を設けている。それぞれの授業においてこれら項目を，選択肢１と２を集計しその結果をみたのが，以下の 2022 年度，2023 年度授業評価アンケートである。

2022年度 授業評価アンケート（後学期）

科目名	設問01	設問02	設問03	設問04	設問05	設問06	設問07	設問08	設問09
授業分析・リフレクションの理論と実践	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0	100.0	100.0
言語活動と協同学習	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
授業づくりの理論と実践	66.7	66.7	66.7	66.7	66.7	0.0	0.0	100.0	66.7
学習指導のための教材・教具の開発と活用	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0	75.0	75.0
数学(算数)科教育の理論と実践の高度化Ⅰ	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0
数学(算数)科教育の理論と実践の高度化Ⅱ	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0
音楽科教育の理論と実践の高度化Ⅰ	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0	100.0	100.0
音楽科教育の理論と実践の高度化Ⅱ	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
保健体育科教育の理論と実践の高度化Ⅰ	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
授業実践力向上の基礎	50.0	50.0	50.0	50.0	100.0	0.0	0.0	100.0	100.0
積極的生活指導・生徒指導	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0	100.0	100.0
いじめ問題への対応と課題	100.0	100.0	85.7	85.7	100.0	0.0	0.0	85.7	100.0
こども支援のための地域・保護者との協力関係づくり	62.5	62.5	75.0	62.5	87.5	0.0	0.0	87.5	87.5
特別な支援を必要とするこどもの理解と実践	100.0	92.3	100.0	100.0	100.0	7.7	7.7	69.2	92.3
組織的意思決定マネジメント	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0	50.0	100.0
教師の成長とメンタリング	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0	66.7	100.0
学校マネジメント	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0	66.7	100.0
特別支援教育・地域支援の理論と実践	33.3	0.0	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0	33.3	0.0
課題発見実習Ⅱ	91.7	91.7	75.0	91.7	100.0	0.0	0.0	83.3	100.0
課題発見実習Ⅱ（特別支援教育）	100.0	66.7	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0	100.0	100.0
課題解決実習	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	36.4	27.3	63.6	100.0
課題研究Ⅱ	100.0	90.9	72.7	81.8	100.0	0.0	0.0	81.8	100.0
課題研究Ⅱ（特別支援教育）	100.0	66.7	100.0	66.7	100.0	0.0	0.0	100.0	100.0
課題研究Ⅳ	100.0	100.0	90.9	100.0	100.0	27.3	27.3	63.6	100.0

2023年前学期

科目名	設問01	設問02	設問03	設問04	設問05	設問06
教育課程編成の課題と実践	93.8	87.5	93.8	93.8	100.0	100.0
指導と評価の課題と実践	82.4	64.7	82.4	88.2	82.4	76.5
教授・学習の課題と実践	93.8	93.8	87.5	81.3	93.8	87.5
思考・判断・表現力育成の課題と実践	56.3	50.0	62.5	75.0	75.0	62.5
生活指導・生徒指導の実践と課題	93.8	100.0	100.0	93.8	93.8	100.0
学校不適応への実践と課題	93.8	100.0	93.8	93.8	93.8	100.0
学級経営の実践と課題	100.0	93.8	100.0	93.8	100.0	100.0
学校改革の実践と課題	81.3	81.3	93.8	93.8	87.5	87.5
学校教育・教員のあり方の課題と実践	88.2	82.4	94.1	88.2	88.2	76.5
沖縄の学校と社会	100.0	87.5	93.8	93.8	100.0	93.8
特別支援教育特論	90.0	90.0	100.0	90.0	100.0	100.0
課題発見実習Ⅰ	85.7	78.6	78.6	78.6	100.0	85.7
課題発見実習ⅠA（特別支援教育）	100.0	50.0	100.0	100.0	100.0	100.0
課題発見実習ⅠB（特別支援教育）	100.0	50.0	100.0	100.0	100.0	100.0
課題解決実習	100.0	81.8	81.8	72.7	90.9	81.8
課題解決実習（特別支援教育）	100.0	100.0	0.0	50.0	100.0	100.0
課題研究Ⅰ	100.0	71.4	71.4	78.6	92.9	71.4
課題研究Ⅰ（特別支援教育）	100.0	50.0	50.0	100.0	100.0	100.0
課題研究Ⅲ	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

2022 年の授業評価アンケートでは授業ごとに評価のばらつきが目立つ形となり，一方で 2023 年度は特別支援教育の実習関係について低い評価が見られたがその他はおおむね高い評価を得ている。

３．学習成果把握のための教職大学院生を対象としたアンケート調査

本教職大学院では，学習成果，効果を把握する１つの手立てとして，修了生を含め学生に対して定期的に教職や教職大学院に対する意識調査（５件法：「とてもよくあてはまる」～「まったくあてはまらない」）を行い（41 項目），集団の変容を分析している。在学生の調査時期は，基本的に入学直後（事前調査）と２年次の修了直前である。昨年度に終了した６期生及び今年度末に修了した７期生の結果について概観してみたい（アンケートの結果をまとめた表は FD 委員会の項目の最後に掲載）。

（１）６期生

本専攻の教育目的「学習指導力」「生活指導力」「組織運営力」の向上と照らし合わせながら学習成果をみると，次のような顕著な傾向が見て取れる。第１に「学習指導力」については，「専門教科（主に中・高）あるいは最も興味のある分野の力量認知（主に小）」に対する質問に，「力量を有している」と回答した者が，47.6％から 63.0％へと増加している。また，「教材についてその背景まで論理的に理解できる」という質問に対して「あてはまる」と回答した者が，28.6％から 65％へ 2 倍以上に増えて過半数を超えた。さらに，「学習指導に関して自信をもっている」という質問に対しても，「あてはまる」と回答した者が，23.8％から 55％に倍増している。

第２に「生活指導力」については，「子ども理解にすぐれている」という質問に対して「あてはまる」と回答した者が，47.6％から 70％へ上昇し，7 割が肯定的な自己評価をしている。また，「生徒指導に関して，個や集団を指導するための手立てを理解している」という質問に対しては，38.1％から 80％に増加しており，実に８割の学生が肯定的に答えている。

さらに，第３の「組織運営力」についても，「異なる意見・立場を尊重し，職務にあたっている」という質問に対して「あてはまる」と回答した者が，76.2％から 95％へと着実に向上している。

以上を踏まえたうえで，最後に専攻の教育目的から改めて結果を見てみたい。本専攻は，「学習指導場面，生徒指導場面，組織運営場面を通じて合理的かつ反省的に考えて問題解決ができる人材を育成すること」を教育目的としている。これに対する学習成果・効果としては，まず，「高い専門性を有している」という質問に対して「あてはまる」と回答した者が，28.6％から 75％へ大幅に増加していることが重要である。また，「さまざまな課題に対して，適切に対応することができる」及び「さまざまな課題に対して臨機応変に対応することができる」というそれぞれの質問に対して「あてはまる」と回答した者が，前者は 42.9％から 65％へ２倍以上に増加しており，後者も 47.6％から 70％へと着実に増えている。

（２）７期生

７期生に関して次のような顕著な傾向が見て取れる。第１に「学習指導力」については，「専門教科（主に中・高）あるいは最も興味のある分野の力量認知（主に小）」に対する質問に，「力量を有している」と回答した者が，26.3％から 50.0％へ 2 倍近くに増加している。「教材についてその背景まで論理的に理解できる」という質問に対して「あてはまる」と回答した者が，31.6％から 57.9％と大幅に増えている。また，「地域の教育課題について理解している」という質問に対して「あてはまる」と回答した者が，21.1％から 57.9％に増えて過半数を超えた。さらに，「沖縄県の教育課題を理解している」という質問に対して「あてはまる」と回答した者が，52.6％から 94.7％と顕著に増えている。

第２に「生活指導力」については，「生徒指導に関して，個や集団を指導するための手立てを理解している」という質問に対しては，57.9％から 84.2％に増加しており，８割以上の学生が肯定的に答えている。

さらに，第３の「組織運営力」についても，「企画力を有している」という質問に対しても，「あてはまる」と回答した者が，42.1％から 57.9％と過半数を超えた。「異なる意見・立場を尊重し，職務にあたっている」という質問に対して「あてはまる」と回答した者が，77.8％から 100％へとなっており，この項目に対しては全員が自信を持っていることが伺える。

以上を踏まえたうえで，最後に専攻の教育目的から改めて結果を見てみたい。本専攻は，「学習指

導場面，生徒指導場面，組織運営場面を通じて合理的かつ反省的に考えて問題解決ができる人材を育成すること」を教育目的としている。これに対する学習成果・効果としては，まず，「高い専門性を有している」という質問に対して「あてはまる」と回答した者が，36.8%から 52.6%へと倍増していることが重要である。また，「さまざまな課題に対して，適切に対応することができる」及び「さまざまな課題に対して臨機応変に対応することができる」というそれぞれの質問に対して「あてはまる」と回答した者が，前者は 57.9%から 78.9%へ増加しており，後者も 42.1%から 63.2%へと着実に増えている。「自分の成長を意識している」という質問に対して「あてはまる」と回答した者が，73.7%から 94.7%へと増加しており，大学院での学びが自己の成長につながっていることを自覚している。

これらの結果は，大学院生の主観的評価であることを十分に認識しつつも，本専攻の教育目的は，一定の成果を得ているといえるであろう。

４．その他

今年度は教員養成評価機構による認証評価が実施されたことから，受審大学向けの認証評価に関する説明会（６月 12 日）に参加したほか，教員養成評価機構による認証評価基準変更に関する説明会（７月 31 日）に参加した。なお教職大学院認証評価への自己評価書を６月に提出し，訪問調査を 11 月６日に，web による面談を 11 月９日に web 調査に対応した。その結果，すべての項目で「基準の内容を満たしていると判断する」とされており，3 月末日の機構による最終確定を待つところである。

そのほか，「沖縄の学校と社会」における特別講師として沖縄県教育長による特別授業（講話演題：沖縄県の教育の現状と課題－院生に期待すること）が実施された（８月 19 日）。

FD 委員会報告

6期生アンケート　＊すべての質問項目について、上段は入学時（2021年4月）・後段は修了時（2023年2月）、の回答

	まったく有していない		あまり有していない		どちらかというと有していない		平均的な力量である		どちらかというと有している		まあまあ有している		とても有している		未記入	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
専門教科・最も興味のある分野の力量	1	4.8	3	14.3	1	4.8	6	28.6	5	23.8	5	23.8	0	0	0	0
	0	0	1	4.8	0	0	5	23.8	4	19	6	28.6	0	0	4	19

	まったくあてはまらない		あまりあてはまらない		どちらでもない		まあまあてはまる		とてもよくあてはまる		未記入	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
1.さまざまな課題に対して、適切に対応することができる。	1	4.8	1	4.8	10	47.6	9	42.9	0	0	0	0
	0	0	0	0	7	33.3	13	61.9	0	0	0	0
2.子ども理解にすぐれている。	1	4.8	4	19	6	28.6	10	47.6	0	0	0	0
	0	0	0	0	6	28.6	12	57.1	2	9.5	0	0
3.自己成長を意識している。	0	0	0	0	3	14.3	9	42.9	9	42.9	0	0
	0	0	0	0	0	0	10	47.6	10	47.6	0	0
4.他の教員が困っていたら支援することができる。	0	0	1	4.8	2	9.5	15	71.4	3	14.3	0	0
	0	0	0	0	2	9.5	13	61.9	5	23.8	0	0
5.地域の教育課題について理解している。	2	9.5	4	19	10	47.6	5	23.8	0	0	0	0
	0	0	2	9.5	5	23.8	12	57.1	1	4.8	0	0
6.さまざまな課題に対して、臨機応変に対応することができる。	1	4.8	4	19	6	28.6	8	38.1	2	9.5	0	0
	0	0	1	4.8	5	23.8	12	57.1	2	9.5	0	0
7.教材についてその背景まで論理的に理解できる。	0	0	6	28.6	9	42.9	5	23.8	1	4.8	0	0
	0	0	3	14.3	4	19	13	61.9	0	0	0	0
8.児童生徒の既習の定着度合いを把握している。	0	0	7	33.3	5	23.8	8	38.1	1	4.8	0	0
	0	0	1	4.8	5	23.8	13	61.9	1	4.8	0	0
9.学習に対する子どもの考えを客観的かつ共感的に理解することができる。	0	0	2	9.5	7	33.3	11	52.4	1	4.8	0	0
	0	0	1	4.8	1	4.8	12	57.1	6	28.6	0	0
10.学級という集団のマネジメント力を有している。	1	4.8	4	19	7	33.3	9	42.9	0	0	0	0
	0	0	0	0	7	33.3	10	47.6	3	14.3	0	0
11.時代の変化に適切に対応することができる。	0	0	2	9.5	7	33.3	10	47.6	2	9.5	0	0
	0	0	1	4.8	4	19	12	57.1	3	14.3	0	0
12.同僚との関係がよい。	0	0	1	4.8	3	14.3	12	57.1	5	23.8	0	0
	0	0	1	4.8	3	14.3	11	52.4	5	23.8	0	0
13.学習指導に関して自信をもっている。	2	9.5	3	14.3	11	52.4	4	19	1	4.8	0	0
	0	0	2	9.5	7	33.3	11	52.4	0	0	0	0
14.教えることよりも、子供の学びを重視している。	0	0	0	0	5	23.8	10	47.6	6	28.6	0	0
	0	0	0	0	2	9.5	10	47.6	8	38.1	0	0
15.企画力を有している。	0	0	4	19	6	28.6	9	42.9	2	9.5	0	0
	0	0	1	4.8	6	28.6	13	61.9	0	0	0	0
16.自己研鑽に努めている。	0	0	1	4.8	2	9.5	11	52.4	7	33.3	0	0
	0	0	0	0	0	0	11	52.4	9	42.9	0	0
17.何事に対しても探求心がある。	0	0	0	0	6	28.6	9	42.9	6	28.6	0	0
	0	0	0	0	1	4.8	10	47.6	9	42.9	0	0
18.広い視野を有している。	1	4.8	2	9.5	12	57.1	5	23.8	1	4.8	0	0
	0	0	0	0	4	19	14	66.7	2	9.5	0	0
19.幼児・児童・生徒への愛情をもっている。	0	0	0	0	2	9.5	13	61.9	6	28.6	0	0
	0	0	0	0	0	0	8	38.1	12	57.1	0	0
20.授業を振り返り、次時の指導に生かしている。	0	0	0	0	6	28.6	10	47.6	5	23.8	0	0
	0	0	0	0	0	0	13	61.9	7	33.3	0	0
21.保護者と信頼関係を構築している。	1	4.8	0	0	6	28.6	13	61.9	1	4.8	0	0
	0	0	0	0	6	28.6	10	47.6	4	19	0	0
22.自分の言動を常に振り返っている。	0	0	0	0	7	33.3	9	42.9	5	23.8	0	0
	0	0	0	0	1	4.8	11	52.4	8	38.1	0	0
23.どのような場面でもまわりの人と支え合うことができる。	0	0	1	4.8	4	19	12	57.1	4	19	0	0
	0	0	0	0	2	9.5	14	66.7	4	19	0	0
24.生徒指導に関して、個や集団を指導するための手立てを理解している。	0	0	4	19	9	42.9	7	33.3	1	4.8	0	0
	0	0	0	0	4	19	12	57.1	4	19	0	0
25.学校内での人材育成の重要性を理解している。	0	0	1	4.8	3	14.3	10	47.6	7	33.3	0	0
	0	0	0	0	5	23.8	10	47.6	5	23.8	0	0
26.危機管理の大切さを理解し、且つ危機の未然防止に努めている。	0	0	0	0	4	19	12	57.1	4	19	1	4.8
	0	0	0	0	4	19	11	52.4	5	23.8	0	0
27.組織の一員としての自分の役割を理解している。	0	0	1	4.8	4	19	13	61.9	3	14.3	0	0
	0	0	0	0	4	19	13	61.9	3	14.3	0	0
28.地域・関係機関等と連携協働のネットワークを形成している。	1	4.8	1	4.8	14	66.7	5	23.8	0	0	0	0
	0	0	0	0	12	57.1	7	33.3	1	4.8	0	0
29.沖縄県の教育課題を理解している。	0	0	5	23.8	8	38.1	8	38.1	0	0	0	0
	0	0	2	9.5	2	9.5	13	61.9	3	14.3	0	0
30.校内においてリーダー的な役割を果たしている。	2	9.5	5	23.8	9	42.9	4	19	1	4.8	0	0
	1	4.8	2	9.5	11	52.4	6	28.6	0	0	0	0
31.高い専門性を有している。	2	9.5	4	19	9	42.9	5	23.8	1	4.8	0	0
	0	0	1	4.8	4	19	15	71.4	0	0	0	0
32.学校経営に参画する意識を強くもっている。	0	0	1	4.8	3	14.3	11	52.4	6	28.6	0	0
	1	4.8	2	9.5	2	9.5	13	61.9	2	9.5	0	0
33.基本的生活習慣やルール、マナーなどについて、積極的に指導している。	1	4.8	1	4.8	6	28.6	10	47.6	3	14.3	0	0
	0	0	0	0	5	23.8	12	57.1	3	14.3	0	0
34.異なる意見・立場を尊重し、職務にあたっている。	0	0	0	0	5	23.8	13	61.9	3	14.3	0	0
	0	0	0	0	1	4.8	13	61.9	6	28.6	0	0
35.カリキュラム・マネジメントに強い興味関心がある。	0	0	2	9.5	6	28.6	7	33.3	6	28.6	0	0
	0	0	1	4.8	4	19	9	42.9	6	28.6	0	0
36.策定した指導計画を適切に実施している。	1	4.8	2	9.5	12	57.1	6	28.6	0	0	0	0
	0	0	0	0	6	28.6	12	57.1	2	9.5	0	0
37.常に、子ども同士の学び合いを意識して授業している。	0	0	1	4.8	4	19	11	52.4	5	23.8	0	0
	0	0	0	0	1	4.8	8	38.1	11	52.4	0	0
38.授業中、子どもの言動やワークシートから学習のつまずきを推察できる。	0	0	0	0	11	52.4	9	42.9	1	4.8	0	0
	0	0	1	4.8	1	4.8	11	52.4	6	28.6	1	4.8
39.自らの課題を見出し、自己成長のため努力している。	0	0	0	0	3	14.3	11	52.4	7	33.3	0	0
	0	0	0	0	1	4.8	9	42.9	10	47.6	0	0
40.学校外から多くの教育に関する情報を収集している。	0	0	1	4.8	5	23.8	12	57.1	3	14.3	0	0
	0	0	1	4.8	1	4.8	12	57.1	6	28.6	0	0
41.合理的かつ反省的に考えて問題解決しようとする意欲がある。												
	0	0	0	0	0	0	14	66.7	6	28.6	0	0
42.合理的かつ反省的に考えて問題解決しようとしている。												
	0	0	0	0	2	9.5	12	57.1	6	28.6	0	0
43.理論と実践を往還させながら教育実践を積み重ねようとする意欲がある。												
	0	0	0	0	0	0	11	52.4	9	42.9	0	0
44.理論と実践を往還させながら教育実践を積み重ねようとしている。												
	0	0	0	0	0	0	11	52.4	9	42.9	0	0

＊項目41～44については、修了時のみ質問

FD 委員会報告

7期生アンケート　＊すべての質問項目について、上段は入学時（2022年4月）・後段は修了時（2024年2月）、の回答

	まったく有していない		あまり有していない		どちらかというと有していない		平均的な力量である		どちらかというと有している		まあまあ有している		とても有している		未記入	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
専門教科・最も興味のある分野の力量	0	0	3	14.3	1	4.8	10	47.6	2	9.5	3	14.3	0	0	0	0
	0	0	0	0	1	4.8	6	28.6	2	9.5	5	23.8	0	0	5	23.8

	まったくあてはまらない		あまりあてはまらない		どちらでもない		まあまああてはまる		とてもよくあてはまる		未記入	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
1.さまざまな課題に対して、適切に対応することができる。	0	0	4	19	4	19	11	52.4	0	0	0	0
	0	0	0	0	4	19	13	61.9	2	9.5	0	0
2.子ども理解にすぐれている。	0	0	2	9.5	3	14.3	14	66.7	0	0	0	0
	0	0	0	0	6	28.6	11	52.4	2	9.5	0	0
3.自己成長を意識している。	0	0	1	4.8	4	19	12	57.1	2	9.5	0	0
	0	0	0	0	1	4.8	14	66.7	4	19	0	0
4.他の教員が困っていたら支援することができる。	0	0	3	14.3	2	9.5	12	57.1	2	9.5	0	0
	0	0	1	4.8	3	14.3	11	52.4	4	19	0	0
5.地域の教育課題について理解している。	1	4.8	8	38.1	6	28.6	4	19	0	0	0	0
	0	0	1	4.8	7	33.3	10	47.6	1	4.8	0	0
6.さまざまな課題に対して、臨機応変に対応することができる。	0	0	3	14.3	8	38.1	7	33.3	1	4.8	0	0
	0	0	0	0	7	33.3	9	42.9	3	14.3	0	0
7.教材についてその背景まで論理的に理解できる。	2	9.5	6	28.6	5	23.8	6	28.6	0	0	0	0
	0	0	3	14.3	5	23.8	11	52.4	0	0	0	0
8.児童生徒の既習の定着度合いを把握している。	0	0	2	9.5	5	23.8	12	57.1	0	0	0	0
	0	0	1	4.8	4	19	13	61.9	1	4.8	0	0
9.学習に対する子どもの考えを客観的かつ共感的に理解することができる。	0	0	2	9.5	4	19	11	52.4	2	9.5	0	0
	0	0	0	0	3	14.3	15	71.4	1	4.8	0	0
10.学級という集団のマネジメント力を有している。	0	0	5	23.8	4	19	9	42.9	1	4.8	0	0
	0	0	0	0	8	38.1	9	42.9	2	9.5	0	0
11.時代の変化に適切に対応することができる。	0	0	3	14.3	5	23.8	9	42.9	2	9.5	0	0
	0	0	1	4.8	5	23.8	10	47.6	3	14.3	0	0
12.同僚との関係がよい。	0	0	0	0	4	19	12	57.1	3	14.3	0	0
	0	0	0	0	4	19	9	42.9	6	28.6	0	0
13.学習指導に関して自信をもっている。	0	0	6	28.6	6	28.6	6	28.6	1	4.8	0	0
	0	0	0	0	11	52.4	6	28.6	2	9.5	0	0
14.教えることよりも、子供の学びを重視している。	0	0	0	0	5	23.8	12	57.1	2	9.5	0	0
	0	0	0	0	2	9.5	12	57.1	5	23.8	0	0
15.企画力を有している。	0	0	4	19	7	33.3	7	33.3	1	4.8	0	0
	0	0	2	9.5	6	28.6	8	38.1	3	14.3	0	0
16.自己研鑽に努めている。	0	0	1	4.8	4	19	9	42.9	5	23.8	0	0
	0	0	0	0	1	4.8	11	52.4	7	33.3	0	0
17.何事に対しても探求心がある。	0	0	0	0	2	9.5	15	71.4	2	9.5	0	0
	0	0	0	0	2	9.5	10	47.6	7	33.3	0	0
18.広い視野を有している。	0	0	3	14.3	7	33.3	9	42.9	0	0	0	0
	0	0	0	0	7	33.3	11	52.4	1	4.8	0	0
19.幼児・児童・生徒への愛情をもっている。	0	0	0	0	0	0	10	47.6	9	42.9	0	0
	0	0	0	0	0	0	8	38.1	11	52.4	0	0
20.授業を振り返り、次時の指導に生かしている。	0	0	0	0	1	4.8	17	81	1	4.8	0	0
	0	0	1	4.8	1	4.8	13	61.9	4	19	0	0
21.保護者と信頼関係を構築している。	0	0	0	0	6	28.6	11	52.4	1	4.8	1	4.8
	0	0	1	4.8	2	9.5	10	47.6	6	28.6	0	0
22.自分の言動を常に振り返っている。	0	0	0	0	2	9.5	15	71.4	2	9.5	0	0
	0	0	0	0	3	14.3	13	61.9	3	14.3	0	0
23.どのような場面でもまわりの人と支え合うことができる。	0	0	0	0	0	0	17	81	2	9.5	0	0
	0	0	0	0	3	14.3	13	61.9	3	14.3	0	0
24.生徒指導に関して、個や集団を指導するための手立てを理解している。	0	0	4	19	4	19	11	52.4	0	0	0	0
	0	0	1	4.8	2	9.5	14	66.7	2	9.5	0	0
25.学校内での人材育成の重要性を理解している。	0	0	1	4.8	3	14.3	12	57.1	3	14.3	0	0
	0	0	0	0	2	9.5	13	61.9	4	19	0	0
26.危機管理の大切さを理解し、且つ危機の未然防止に努めている。	0	0	2	9.5	4	19	11	52.4	2	9.5	0	0
	0	0	1	4.8	4	19	11	52.4	3	14.3	0	0
27.組織の一員としての自分の役割を理解している。	0	0	1	4.8	3	14.3	14	66.7	1	4.8	0	0
	0	0	0	0	2	9.5	13	61.9	4	19	0	0
28.地域・関係機関等と連携協働のネットワークを形成している。	1	4.8	7	33.3	5	23.8	4	19	1	4.8	1	4.8
	0	0	1	4.8	10	47.6	7	33.3	1	4.8	0	0
29.沖縄県の教育課題を理解している。	0	0	5	23.8	4	19	10	47.6	0	0	0	0
	0	0	0	0	1	4.8	16	76.2	2	9.5	0	0
30.校内においてリーダー的な役割を果たしている。	0	0	4	19	6	28.6	7	33.3	1	4.8	1	4.8
	1	4.8	1	4.8	8	38.1	8	38.1	1	4.8	0	0
31.高い専門性を有している。	2	9.5	4	19	6	28.6	6	28.6	1	4.8	0	0
	0	0	2	9.5	7	33.3	8	38.1	2	9.5	0	0
32.学校経営に参画する意識を強くもっている。	0	0	3	14.3	5	23.8	10	47.6	1	4.8	0	0
	0	0	1	4.8	6	28.6	10	47.6	2	9.5	0	0
33.基本的生活習慣やルール、マナーなどについて、積極的に指導している。	0	0	1	4.8	4	19	12	57.1	1	4.8	1	4.8
	0	0	1	4.8	6	28.6	10	47.6	2	9.5	0	0
34.異なる意見・立場を尊重し、職務にあたっている。	0	0	0	0	4	19	11	52.4	3	14.3	1	4.8
	0	0	0	0	0	0	15	71.4	4	19	0	0
35.カリキュラム・マネジメントに強い興味関心がある。	0	0	5	23.8	4	19	7	33.3	3	14.3	0	0
	0	0	3	14.3	6	28.6	8	38.1	2	9.5	0	0
36.策定した指導計画を適切に実施している。	0	0	1	4.8	9	42.9	8	38.1	1	4.8	0	0
	0	0	1	4.8	8	38.1	8	38.1	2	9.5	0	0
37.常に、子ども同士の学び合いを意識して授業している。	0	0	0	0	1	4.8	16	76.2	2	9.5	0	0
	0	0	0	0	1	4.8	11	52.4	7	33.3	0	0
38.授業中、子どもの言動やワークシートから学習のつまずきを推察できる。	0	0	0	0	4	19	13	61.9	2	9.5	0	0
	0	0	0	0	2	9.5	14	66.7	3	14.3	0	0
39.自らの課題を見出し、自己成長のため努力している。	0	0	0	0	3	14.3	13	61.9	3	14.3	0	0
	0	0	0	0	1	4.8	15	71.4	3	14.3	0	0
40.学校外から多くの教育に関する情報を収集している。	0	0	2	9.5	4	19	10	47.6	3	14.3	0	0
	0	0	1	4.8	2	9.5	14	66.7	2	9.5	0	0
41.合理的かつ反省的に考えて問題解決しようとする意欲がある。												
	0	0	0	0	2	9.5	14	66.7	3	14.3	0	0
42.合理的かつ反省的に考えて問題解決しようとしている。												
	0	0	0	0	2	9.5	14	66.7	3	14.3	0	0
43.理論と実践を往還させながら教育実践を積み重ねようとする意欲がある。												
	0	0	0	0	3	14.3	10	47.6	6	28.6	0	0
44.理論と実践を往還させながら教育実践を積み重ねようとしている。												
	0	0	0	0	3	14.3	9	42.9	7	33.3	0	0

＊項目41～44については、修了時のみ質問

令和5(2023)年度　高度教職実践専攻会議構成員以外の授業科目担当一覧

1　必修科目

科目名	履修学生	担当教員	備考
教育課程編成の課題と実践	高度教職実践専攻 １年次	教育学部　学校教育講座 准教授　塚原　健太	教職実践講座 教授　　吉田 安規良 准教授　比嘉 俊 と共同
課題研究Ⅱ 課題発見実習Ⅱ	仲地　孝子	教育学部　国語教育講座 准教授　高瀬　裕人	
	添石　浩太	教育学部　理科教育講座 教授　　濱田　栄作	
	山本　陸渡	教育学部　保健体育講座 准教授　江藤　真生子	
課題研究Ⅲ 課題研究Ⅳ 課題解決実習	金城　薫	教育学部　国語教育講座 准教授　高瀬　裕人	
	上間　里佐	教育学部　音楽教育講座 教授　　小川　由美 准教授　﨑山　弥生	
	大城　あやの 金城　貴裕	教育学部　音楽教育講座 教授　　小川　由美	

2　選択科目

科目名	履修学生	担当教員	備考
授業実践力の向上の基礎	高度教職実践専攻 １年次（非現職院生）	教育学部　英語教育講座 准教授　津田　敦子	教職実践講座 教授　　道田 泰司 准教授　多和田 実 教職センター 准教授　神里 美智子 准教授　永田 聖子 と共同
校内研究組織の実践と課題	儀間　明子 狩俣　智史 板部　真一 宮城　恵	教育学部　保健体育講座 准教授　江藤　真生子	教職実践講座 教授　　白尾　裕志 教授　　金城　満 と共同
国語科教育の理論と実践の高度化Ⅰ	仲地　孝子 宮城　恵	教育学部　国語教育講座 准教授　高瀬　裕人	
国語科教育の理論と実践の高度化Ⅱ	上原　可苗 松田　夏偉	教育学部　国語科教育 教授　　村上　呂里	

理科教育の理論と実践の高度化Ⅰ 理科教育の理論と実践の高度化Ⅱ	添石　浩太	教育学部　理科教育講座 教授　　濱田　栄作	
保健体育科教育の理論と実践の高度化Ⅰ 保健体育科教育の理論と実践の高度化Ⅱ	山本　陸渡	教育学部　保健体育科講座 准教授　江藤　真生子	
社会科教育の理論と実践の高度化Ⅰ 社会科教育の理論と実践の高度化Ⅱ	喜友名　秀美 北條　明日香	教育学部　社会科教育講座 准教授　北上田　源	
数学科教育の理論と実践の高度化Ⅰ 数学科教育の理論と実践の高度化Ⅱ	仲眞　琴美	教育学部　数学教育講座 准教授　湯澤　秀文	
英語科教育の理論と実践の高度化Ⅰ	吉元　嘉奈子 大田　穂乃華 宮國　貴史 狩俣　智史	教育学部　英語教育講座 教授　　與儀　峰奈子	
英語科教育の理論と実践の高度化Ⅱ		教育学部　英語教育講座 准教授　深澤　真	
授業づくりと指導の高度化	板部　真一	教育学部　学校教育講座 教授　　廣瀬　等	

※非常勤講師を除いた琉球大学の専任教員のみを掲載

学校訪問回数一覧（学校等における実習での指導等）

本教職大学院においては，学習指導場面，生徒指導場面，組織運営場面という沖縄県の課題に関わる各場面において合理的かつ反省的に考えて問題解決ができる人材を育成することを目的の一つとしている。そのため，「課題発見実習Ⅰ/IA/IB・Ⅱ」と「課題解決実習」及び「インターン実習」における実習参観及びリフレクション並びに実習校との事前調整等のため，学校訪問を行っている。

なお，学校訪問の回数は次のとおりである。

【令和４年度（2022 年度）確定版】

氏　名	回数	備　考
道田　泰司	19	
杉尾　幸司	13	専攻長
田中　洋	16	
吉田　安規良	24	
上間　陽子	7	
丹野　清彦	14	
下地　敏洋	23	
浦崎　武	17	
白尾　裕志	15	
金城　満	11	
藏滿　逸司	18	
村末　勇介	26	
比嘉　俊	9	
城間　園子	56	
多和田　実	33	
上原　正人	25	人事交流
神里　美智子	44	人事交流
高瀬　裕人	6	教育学部所属
合　計	376	

【令和５年度（2023 年度）暫定版】

氏　名	回数	備　考
道田　泰司	26	
杉尾　幸司	9	専攻長
吉田　安規良	20	
上間　陽子	8	
丹野　清彦	19	
下地　敏洋	25	
浦崎　武	29	
白尾　裕志	10	
金城　満	12	
村末　勇介	21	
比嘉　俊	20	
城間　園子	62	
多和田　実	31	
加藤　司	10	
神里　美智子	49	人事交流
永田　聖子	30	人事交流
村上　呂里	4	教育学部所属
高瀬　裕人	1	教育学部所属
江藤　真生子	1	教育学部所属
小川　由美	8	教育学部所属
﨑山　弥生	2	教育学部所属
權　偕珍	1	教育学部所属
合　計	398	

（令和６年２月２７日　現在）